

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成15年(2003)大会号



新潟県立村松高等学校東京同窓会

No. 35



松高東京同窓会 第46回大会に当って

大会実行委員長 伊藤勇五（旧中33回）

暦は6月、今年も梅雨の候となりました。皆様にはお障りなくお過ごしのこと、先ずは大慶に存じます。日頃より東京同窓会にご協力を頂き、誠に有難うございます。

先月の下旬、所用で田舎へ帰りました。新潟へ着いたら都合よく10分ほど待ただけで、村松へ直通の高速バスに乗ることが出来ました。別に疲れてもいなかったのに途中で眠ってしまい、気が付いたらバスはもう今泉で、大きなスーパーの前を通り過ぎるところでした。外を見ると周りの田圃は既に田植えが終わっている様でした。それにしても植えたばかりの早苗がこんなに小さいとは意外でした。細くて小さな葉先が風に揺れているのが健気に見えました。あれから1ヶ月、いま時分は蒲原の沃野である苗たちも程々に伸びて、元気な若苗に育っている事でしょう。この折り当地では、松高東京同窓会の第46回大会が開催される運びとなりました。東京同窓会が更に一つ歴史を重ねた喜びと同時に、皆様との一年ぶりの再会が楽しみです。

これまでに私は2度、大会の実行委員長を務めさせて頂きました。20世紀最後の年の第43回大会と、21

世紀最初の年の第44回大会です。この時に70才を過ぎていた私は、この記念となる両大会限りで実行委員長の仕事は免じて貰おうと考えていました。

東京同窓会は先の役員改選で若い役員が更に増えて、その中身が一層強化されています。例を挙げれば、今まで二名だった副会長が4名になり、夫々が本来の役目の他に各委員会の担当となりました。各委員長とのコンビ振りが期待される処です。毎年大会になると実行委員会が組織されて実行委員長が選出されます。若く活力に充ちた東京同窓会はその人材に事欠きません。そんな中で迎えた今度の大会ですが、新しい副会長の中でただ一人旧中卒の私への気遣いでしょうか、今度の大会の実行委員長にと声が掛かりました。“更に若返りを目指す会の歩みに逆行する”と固辞しましたが、結局、先輩を立てる皆の心を受けて、私にとり3度目の役を務めさせて頂く事になりました。第46回大会が滞りなく了える様、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様も存分にお楽しみ頂き、交流を深めてくだされば幸いです。

皆様のお出でを一同心からお待ち申し上げて居ります。

東京同窓会 第46回大会 プログラム

日時 平成15年6月7日(土) 正午開催 会場 東天紅・上野店

第一部 総会 〈司会・進行 石黒 四郎 山西愈佐子〉

- 1) 開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・実行委員長 伊藤 勇五
- 2) 東京同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長 佐伯 益一
- 3) 村松高校同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長 伊藤 淳一
- 4) 村松高校学校長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・校長 水茎 芳英
- 5) 平成14年度 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・総務委員長 金子 鶴男
- 6) 平成14年度 会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・財務委員長 塚田 勝
- 7) 平成14年度 会計監査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・監査 佐久間英輔
- 8) 閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会者

第二部 懇親会 〈司会・進行 石黒 四郎 山西愈佐子〉

- 1) 開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会者
- 2) 乾杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会者指名
- 3) アトラクション・カラオケ・・・・・・・・・・・・・・・・・・有 志
- 4) 抽選会・・・・・・・・・・・・・・・・・・篠川 恒夫 他
- 5) 校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・全 員
- 6) 手締め・・・・・・・・・・・・・・・・・・副会長 鈴木多喜男
- 7) 閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・副会長 深見 洋子

お世話になりました

前村松高等学校長 杉原 雅昭



東京同窓会の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと
思います。皆様方から大変お世話になりましたが、この3
月31日をもって無事退職を迎えることができました。
村松高校で楽しく過ごすことができたのも佐伯会長様は
じめ皆様のお陰であると心から感謝申し上げる次第です。
本当にありがとうございました。

私は、大学の時に寮に住んでいましたが、週に一回くら
いの割合で杉並区（京王線代田橋駅から徒歩）に住む伯
父さんの家によく遊びに行き、ご馳走になったものでし
た。その伯父がよく村松の話をしてくれました。
実は、伯父は旧制村松中学第13回（昭和3年3月）の
卒業生でした。私の父は伯父のすぐ下の弟で同じく旧制
村松中学で学びました。ただ、父は親の転勤で4年生ま
まで、新発田中学に5年生で転校したとのことでした。
当時、馬下に住んでいたと聞きました。いずれにしても、
縁の深い村松高校で3年間お世話になったことを
嬉しく思っています。

この3年間では幸運にも創立90周年に巡り合わせ、
同窓の皆様方の母校への想いをあらためて感じさせて頂
き感動、感激として脳裏に焼き付いています。

次の100周年がとても楽しみです。

また、この3年間は少子化による生徒減の中で高校は統
廃合や改革が行われるなどの、高校整備計画の真つ最中
でもあり、本校の有り様を模索した時期でもありました。
本校は旧制中学の伝統と歴史を背負い、地域の普通科高
校として歩むべく方向が示されることになり内心ホッ
としています。これからが大切だろうと考えています。
今後益々実績を積み上げられるよう念じ、期待したいと
思います。

退職後は、とにかく1、2年は遊びたいと思います。
トレッキング、山菜採り、田舎の友人のところでの畑い
じり、国内外旅行、クッキングなどです。
また、内緒ですが勉強もしてみたいと思います。後はそ
れから考えます。

いまは、終わったばかりでバタバタしています。
皆様にまた、いつか会える日を楽しみにしています。

それでは、東京同窓会の皆様、本当にお世話様になり
ました。心より厚くお礼申し上げ挨拶と致します。



大原付近から霊峰白山を望む

ありがとうございました

二月といえば冬のさ中、村松にも相当な積雪があったと親戚の受験生から聞き及びました。
母校の生徒諸君も受験期を迎えて今が大事な時期であり又、先生方も何かとお忙しい事と存じますが各人の希望
する進路が成就いたしますよう心よりお祈り申し上げます。杉原様が、村松高等学校長として数多くの成果を上
げられた三年間のご努力が最後に花開き、希望に満ちた新年度になることを確信しつつ同窓生一同感謝申し上げ
る次第です。杉原様が村松高校に縁のあることがこの度のご寄稿により初めて知りました。もっと早く存じ上げ
ておれば色々と話も弾んだことと今更ながら残念に思っております。

ご退職後は、1～2年は存分に心身の解放をされて晴耕雨読、旅行等の日々を送られるご予定とうかがいまし
て、まことに羨ましいかぎりです。今後とも、杉原様のご健康とますますのご発展をお祈り致しますと共に松
城健児の明るい未来を祈念致します。

村松高校東京同窓会

ありがとうございました

①平成14年度・会費納入された方々（敬称略）

◎旧中の部（33名）

相田忠亮、五十嵐一郎、伊藤秀男、伊藤勇五、伊藤達郎
笠原健二郎、亀嶋 謙、北沢卓夫、黒井伊作、熊倉 悟
斉藤和男、斉藤朝之、佐伯益一、佐久間精一、佐藤豊夫
佐野善五、酒井 忠、式場俊三、高久貞夫、千代国一
弦巻隆輔、寺田徳隣、成海正弘、西山荘平、芳賀健一
松尾 貢、水尾広吉、武藤三郎、矢部五郎、横松宏平
吉田公男、芳原英男、中村市雅一郎

◎高校男子の部（109名）

青木 猛、新井康夫、阿部 勇、安部 実、青木敏和
伊藤 馥、伊藤和賢、石黒四郎、石川 滋、稲毛越郎
今井英雄、岩倉富栄、遠藤 順、遠藤 昭、大島惣四郎
大橋秀雄、大橋貞夫、大西範孝、岡村河志、小笠原一憲
小黒利雄、岡田見津夫、笠原 久、笠原静夫、金子鶴男
笠原大四郎、亀山知明、川合敏男、川村莞爾、神田弘毅
杵渕政海、熊倉芳夫、倉田健五、雲村俊徳、熊倉富次
剣持常泰、小池生夫、小日山芳栄、小柳 実、近藤毅夫
近藤英洋、近藤尚志、近藤洋輝、工 幸雄、佐久間英輔
佐藤 赴、佐々木秀和、篠川恒夫、沢井 昭、斉藤正義
坂上卓夫、佐々木秀三、佐藤 克、佐藤栄治、沢出赴允
新保 優、下野文幹、鈴木多喜男、鈴木健司、鈴木忠雄
鈴木輝雄、瀬倉 薫、関塚 豪、関谷雄二、高岡雄三
高地 彰、高地 勝、高山幹雄、田代信雄、塚田 勝
土田 猛、坪谷次郎、弦巻一郎、弦巻 功、鶴巻旻三
鶴巻 浩、中川善隆、中村雅臣、中山 健、長谷川五郎
根本俊夫、長谷川宏一、二宮文三、廣田達衛、羽賀道信
長谷川洋夫、堀 直昭、松尾正春、松尾 了、増田訓英
羽田清之輔、松田輝夫、間藤謙一、丸山貞次、三室茂和
宮沢正由、武藤正昭、村川五郎、村川恭平、村川忠司
目黒義二、八木又一郎、梁取正道、山崎輝雄、山崎豊吉
山田一男、山田俊治、吉井 清、渡辺八郎

◆平成13年度分会費納入者名

今井英雄、佐野善五、中山 健、松田輝雄

◆平成15年度分会費前納者名

中山 健、根本俊夫、松田輝雄
（亀嶋 謙、北沢卓夫、高岡雄三、西山荘平）
（ ）内は13年度に処理済。

◎旧高女の部（13名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、大橋玉枝、大橋也子
小林早月、佐藤玲子、佐藤治子、新保清子、鈴木節子
田村ミツエ、藤崎トヨ、堀 和子

◎高校女子の部（56名）

安達繁子、荒井るり子、安中克子、飯利 幸、市川 俊
五十嵐八瑞、小沢幸子、緒方康子、大嶋えみ、大野靖子
大橋マツエ、岡部ユキ、加藤久子、片柳ムツ、神田正子
緒形美恵子、川村イク、木村孝子、木村園子、久我マキ
風岡智鶴子、小島典子、近藤燦子、佐藤綾子、佐藤八重
佐々木恵美、斉藤弘子、斉藤英子、佐久間順子
島田淑子、白石キヨ、治田レイ子、鈴木則子、高尾桂子
高岩美江子、高岡五百子、田川百合子、高浜つる子
寺山征子、出口テル、徳永道子、中島和子、仲村エツ
波多ミサエ、深見洋子、福島修子、真水道子、升本久子
丸山セイ子、松本知子、三宅紀子、宮腰ヨイ、向山律子
山西愈佐子、横溝田鶴、渡辺厚子

◆平成13年度分会費納入者名

大橋玉枝、大野靖子

◆平成15年度分会費前納者名

五十嵐八瑞、大野靖子

平成14年度会費納入者数

男子=142名 女子=69名 合計=211名

〔注〕

14年度会費で男子1名は13年度前納で処理済。

②平成14年度・寄付された方々（敬称略）

◎男子の部（12名）金額=30,000円

7,000円 山崎輝雄
5,000円 五十嵐喜作
3,000円 土田武蔵
2,000円 遠藤 順、小日山芳栄、須佐平助
中村雅臣、西山荘平、武藤三郎
梁取正道
1,000円 松田輝雄
郵便切手(4,000円相当分) 田崎正一

◎女子の部（3名）金額=6,000円

2,000円 緒方康子、新保清子、横溝田鶴

合計15名 36,000円

(55 × 50)

(平成14年4月1日より平成15年3月31日まで)

15.4/6 作成

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位: 円)	支出の部 (単位: 円)
特別会計 第45回大会収入 (No.34既報) 737,000	特別会計 第45回大会支出 (No.34既報) 946,540
一般会計	一般会計
① 平成14年度 会費 男子 141名 423,000 630,000 女子 69名 207,000 計 210名×年額 (3,000)	① 第45回大会支出補填費 233,540 同上補填費 (No.34既報) 209,540 同上追加支出 24,000
② 平成14年度 寄付金 36,000 男子 11名 30,000 女子 3名 6,000 計 14名	② 会議費 (常任幹事会・幹事会) 176,634 ③ 通信費、送料 44,914 通信費 (切手、ハガキ) 22,850 印刷費 (振込用紙共) 14,388 一般送料 4,286 宅配送料 3,390
③ 平成13年度 会費 18,000 男子 計 4名 12,000 女子 計 2名 6,000	④ 会報発行費 (年2回) 473,590 編集会議費 84,700 No.33 印刷費 (500) 141,750 同 送料 48,240 No.34 印刷費 (500) 141,750 同 送料 54,000 資料提供謝礼 3,150
④ 受取り利子 (15・4/1 現在・税引後) 67	⑤ 備品購入費 31,710 ⑥ 送金手数料 10,570 会費払込み手数料 9,390 送金手数料 1,180
計 684,067	⑦ 図書購入費 27,000 母校90周年記念誌 20,000 県人会報 7,000
⑤ 平成13年度繰越金 1,664,958	⑧ 慶弔費 30,000 津川高同窓会総会祝儀 10,000 芳賀健一氏葬儀香典 20,000
※ 14年度会費で男子 1名は13年度前納で処理済。 ※ 14年度会費で次の方が重複納入されています。 15年度分会費として処理させていただきましたので 本書には計上してありません。 中山 健・根本俊夫・松田輝雄・五十嵐八瑞・ 大野靖子・ (以上5名@3,000= 15,000)	⑨ 雑費 (交通費、写真、消耗品他) 17,011
収入計 2,349,025	支出計 1,044,969
	差引残額 (15年度へ繰越し) 1,304,056
合計 2,349,025	合計 2,349,025
(預かり金 15,000)	※平成15年度への繰越金内訳 郵便貯金 1,292,563 手持現金 11,493

上記の通り報告いたします。

平成15年 4月10日 会長・佐伯益一^印 財務委員長・塚田 勝^印

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。

平成15年 4月20日 会計監査・佐久間英輔^印 安達繁子^印



平成14年度 東京同窓会の動き

4月 6日(土) 編集会議 (会報33号)
13:00 新潟県人会館
13日(土) 常任幹事会
13:00 新潟県人会館
大会案内状等発送、役員改選
幹事会
15:00 新潟県人会館
14年度大会準備、役員改選
5月 1日(水) 会報33号原稿を第一印刷へ
11日(土) 実行委員会
13:00 東天紅
会場打合せ(料理、飲み物、設営)
幹事会
14:00 新潟県人会館
役員選出、大会実施細目
6月 8日(土) 東京同窓会45回大会
12:00 東天紅・上野店
7月 6日(土) 常任幹事会
13:00 新潟県人会館
会報発送、大会総括
9月 7日(土) 編集会議 (会報34号)
13:00 新潟県人会館
常任幹事会
14:00 新潟県人会館
役員委嘱、委員会役割分担、業務
内容の確認、45回大会会計報告
10月5日(土) 編集会議 (会報34号)
13:00 新潟県人会館

11月 2日(土) 編集会議 (会報34号)
13:00 新潟県人会館
11月16日(土) 会報34号原稿を第一印刷へ
11月16日(土) 常任幹事会
13:30 新潟県人会館
実行委員会の立ち上げ
12月 4日(水) 総務委員会
16:00 東京ガス四谷クラブ
12月22日(日) 常任幹事会
13:30 新潟県人会館
会報発送、大会実行委員会
幹事会
15:30 新潟県人会館
経過報告、大会実行委員会



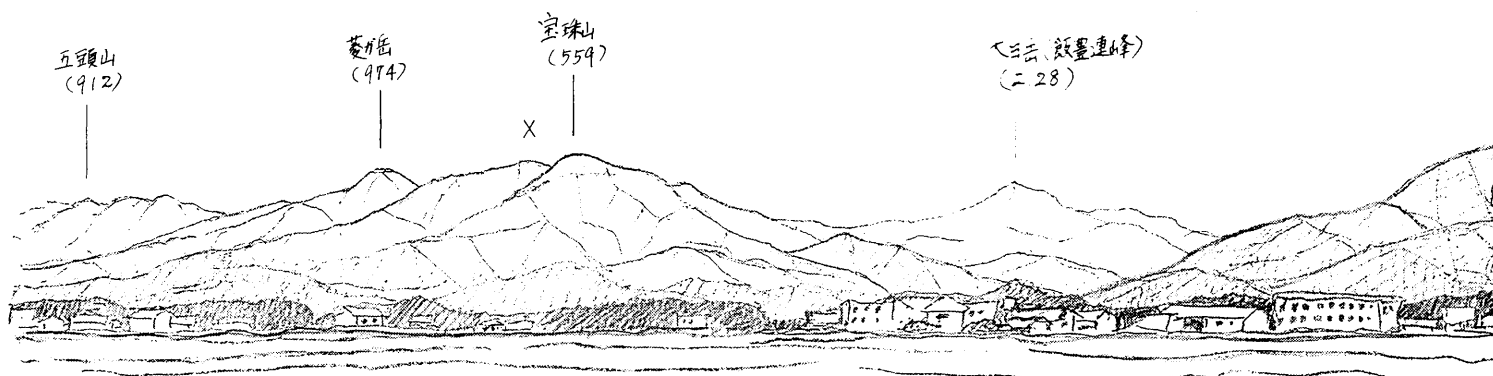
2003年

2月 2日(日) 実行委員会
16:00 東京ガス四谷クラブ
各係・担当打合せ、プログラム
編集会議 (会報35号)
17:30 東京ガス四谷クラブ
3月22日(土) 編集会議
13:30 新潟県人会館

掲載した5枚の山の絵について…齊藤 史郎氏 作

某日、村松で飲んでいた時に誰かが、村松近隣の山の絵を見せてくれた。北東側から南西にかけて一望でき、話が弾んだ。これは見て楽しめ話題性もあるし是非とも「会報」に掲載したいと言っていたら“描いてやろうか?”と 齊藤史郎(高7回・村松町在住)さんの声がした。やがて送られて来たのは、F6の画用紙5枚にもおよぶ素晴らしいスケッチ面で、驚くと共に感動さえ覚えた。彼は、愛宕中学校長になる前は「社会科」の教師でした。 深見

④ 杵差岳はX印方向にあるが千原付近からは望めない



千原付近 ① 史

私がやります！

東京同窓会 会長 佐伯 益一（旧中27回）

およそ、事を為すにあたり責任ある立場にある者は、一般的に次のように考える。「これはちょっと難しいかも知れぬが誰にやってもらおうか」と。そして、それには、およそ次の三つの手段がある。一つは「誰か、やってくれないかな」と、独り言にも似た願望型。二は「あなたこれをやってくれませんか」と、いう依頼型。そして三は「これをやって下さい」と、いう命令型である。

企業やボランティア活動において時々見られる光景である。誰も肯んずる者の居ないような場合、責任者は「最後は自分でやるしかない」と最初から腹の中で決めてかかっているのが通念である。

そんな時に「それは私がやりましょう」と手を挙げる者が居ることは責任者、即ち上司にとって誠に心強い存在となるものである。教訓めいたことを言うが、競争社会の今日、誰かがやるだろうとの思惑、引っ込み思案、優柔不断は禁物である。

未知の事がらであっても、よし！挑戦してみようとの気概を持つことが大切であろう。さすれば知識も得られ対応、手順、段取り等のやり方も自然に覚えていくであろうし、分からぬ所は訊けばよい。失敗してもよいではないか。

同じ失敗は二度繰り返さぬものである。そして、それを成し遂げた後の満足感はまた格別であり、これが身に備わる一つの財産となる。このような気概を持っていれば、世間に出て他から尊敬され、信頼を得るということを知るべきである。

“私がやります”の一言は、中々言えない言葉ではあるが何事も積極的に動くことが肝要であろう。

以上述べたことは「個」の問題である。

然らば集団で事を為す場合ではどうだろうか。前述のように難しい事であれば、皆、黙してムツリ右門を決め込むが、事が安易で且つ、欲得が絡めば希望者は続出する。「オレがやる・オレがやる」では却って秩序を乱し混乱を招くことになる。

集団で行動を起こす時には必ずリーダーを必要とする。旧軍隊では二人揃えば団体といわれた。どちらかが必ず号令をかける事になっていた。これは秩序を守ることである。故に責任者は、その中から然るべき者を指名し、明確な方針を示したうえ、全員が力を結集し事に当ることが必要となる。

さて、東京同窓会では昨年が役員改選の年であった。役員の数を増やし、夫々の役割分担を定め、責任を持って職務を遂行することとなった。

いずれも、「俺がやる・私がやらねば」という気概の持ち主でもある。時代は最早や高校卒の同窓諸君が推進力となっている。喜ばしい事である。

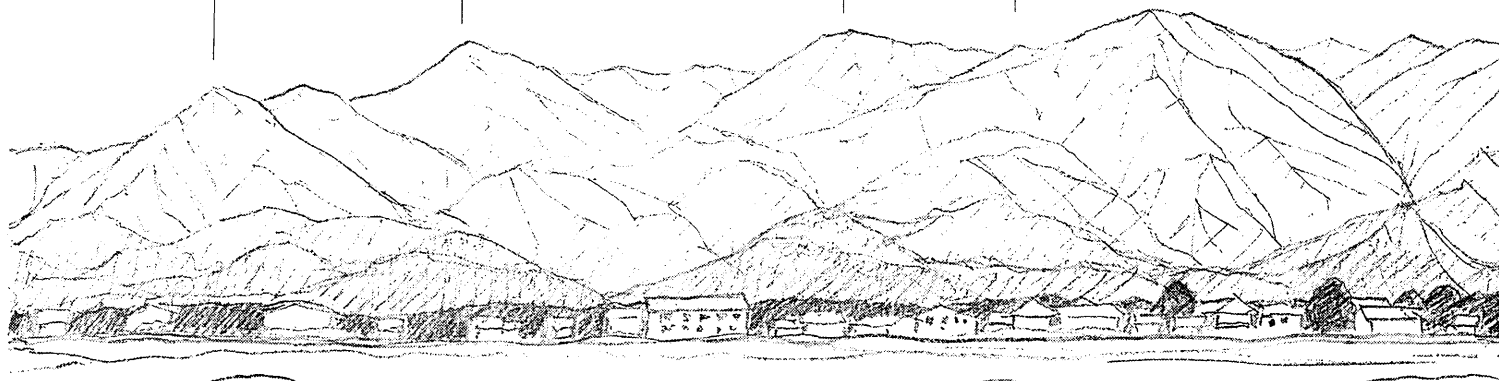
東京の会報「臥龍が丘は緑なり」新春号にも、私の考えの一端を述べたが、私は棚の上に座っておればよいのであり、大局を誤らぬよう見守って行きたいと思う。

本年六月七日、上野の東天紅で開催する第四十六回大会の準備も既に始まっている。また当日配布する会報の編集にも着手している事も、決して早過ぎるということではない。

☆ 本稿は母校「松城」編集部の依頼により、主として本年卒業する生徒諸君を対象に記したものであるが、その後、一部訂正して再掲したものである。

(03・2・13)

花見山 (448) 鳴沢峰 (880) 菅名岳 (909) 三丑郎山 (886) 大蔵山 (864)



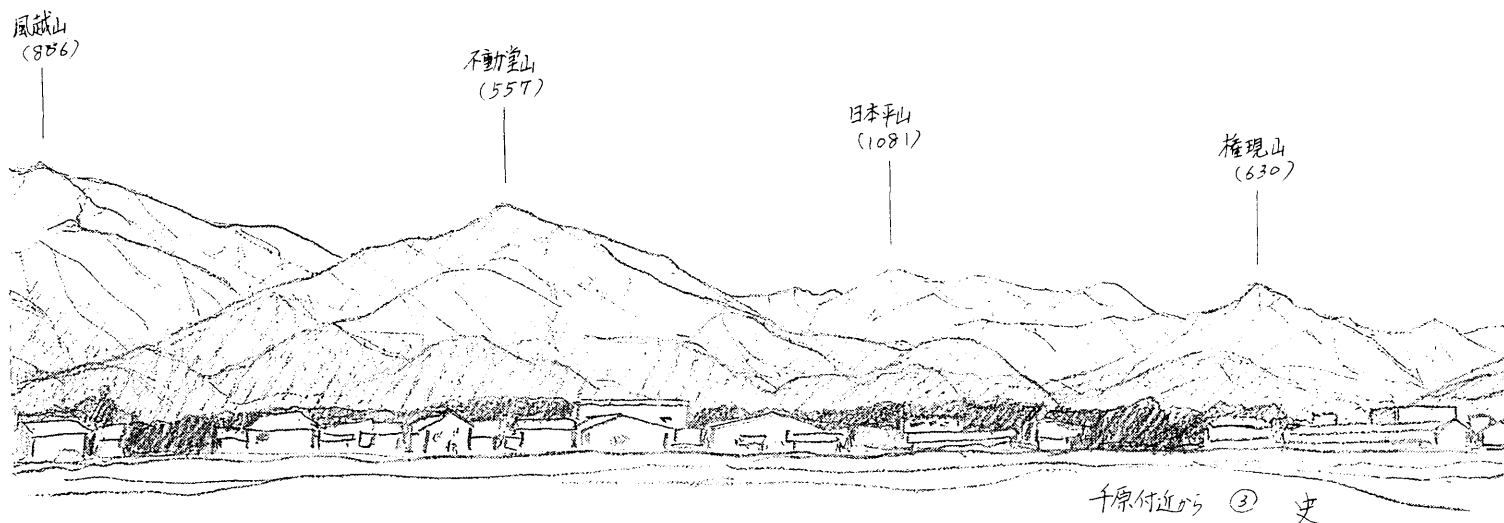
千原付近から ② 史

— 2回も登ってしまったお話 —

公務員業リタイア 3 年目、仕事山で趣味と実益を兼ねて間もない頃の話である。これは小生唯一、山に魅せられて 2 回も登った杵差岳のお話である。これを遊び山と称している。

接尾語、ある語に添えて物の姿や状態をあらわす語。 広辞苑（岩波書店）による

無人雨量局舎で作業の人達と別れてなおも登る。因みに履物は作業用のゴム長靴（中がスポンジで覆われ底のボツは普通のものより深い）。所々、笹藪の間にツバメオモトの群生が見られ気持ちを和ませてくれる。やがてそれが見られなくなった。という事は海拔800mラインを超えたことを意味する。





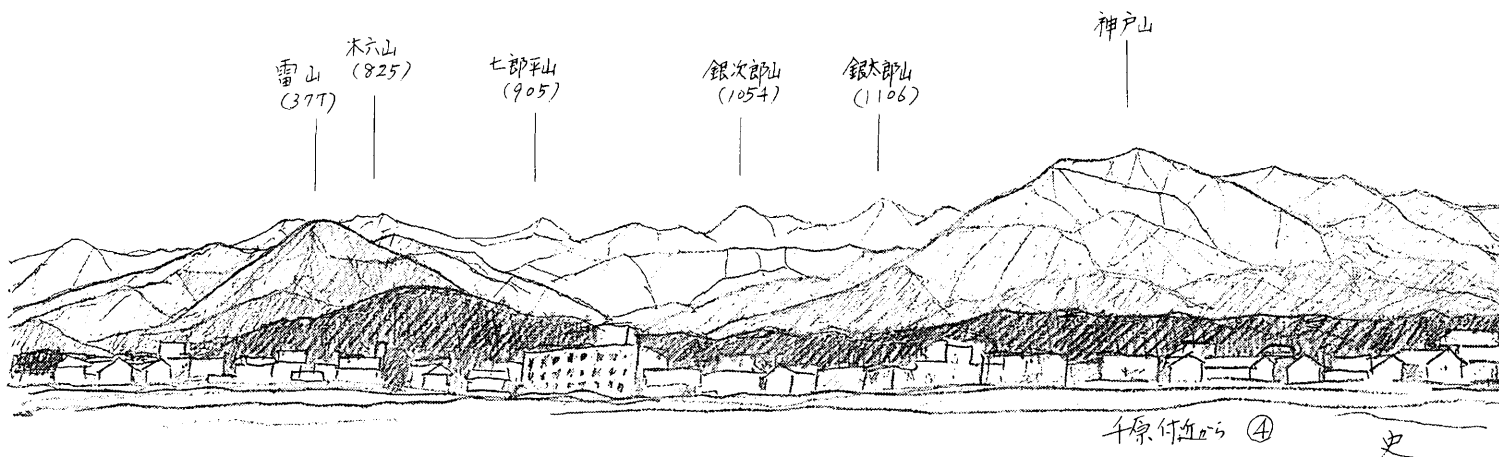
植生界が一変して地に這う高山植物が我々を迎える。霧がさっと来てさっと去る。風も強くて厳しい。ウインドヤッケのフードをおさえて俯いて歩いて行くと遭難した人の小さな墓碑が埋め込んである。気象の急変で命を落としたのであろう。3ヶ所あったがなにかしら身の引き締まるのを感じつつ登りに登る。山頂まであと一息、斜面は一段と険しくなり残雪の中をジグザグに登って行くと、その時、大鷲のつがい雲間から見え隠れしながら悠揚と旋回する様が目にとびこんできた。こんなに大きな鳥をこんなに近くで見たのは生まれて初めてで、襲われるのではないかと思ったり神秘ささえ覚えた。一回目の登山の時は予想もしていなかったのでカメラを出す暇も無く、ただただ見上げていた。残雪が途絶えり、大鷲の舞っていた所に行くと大小の池塘が点在し腹を食い千切られた蛙が仰向けに大の字になって散らばっていた。池塘を通過して頂上への小さな標識を横目にブッシュの坂を登って行くと所々に山桜が開花して迎えてくれた。登りきるとやや下り坂のガラ場になっていてチングルマが強風にあおられながら群生し、その先の霧の中ボーッと山小屋が見えた。山の天気は気紛れで気温は下がり手がかじかむ。小屋の中で缶ビールと握り飯で慌しく昼食を取り下山開始、山小屋の滞在時間は僅か30分だった。山小屋の中の壁面にカラー写真が貼ってあり、50才代女性、飯豊連峰縦走の途中、杵差山頂あたりで行方不明となる、発見された方は右へご連絡を---とあった。もと来た道を辿り下りに下る。大鷲がもう一度姿を見せて霧の中へ消えた。海拔1000mを過ぎ下ると、まるで別世界のように好天気！ツバメオモトの群生をカメラにおさめたりしながら下るが脚を休める平らな所がない。スキー場のスロープよろしく、斜めに横たわり僅かに脚を休める。人気のない所で珍しく大きなリュックをしょって登ってくる二人の若者に出会った。聞けば、大石ダム近くの農協職員で今晚は山小屋に泊まり明日下山するとの事。我々二人は日帰りの杵差登山の帰途だと言うと非常に驚いた様子だった。杵差は単独登山の山ではない。なおも下り無人雨量局舎を横目にとっとと下る。下りも

長時間だと体力の消耗が激しい。眼下の谷に架かるつり橋が見えて歩きはもう少しで終わりという所でふと周囲を見ると木の幹に沢山のヒラタケが生えているではないか。夢中で収穫、その分リュックが重くなる。つり橋がすぐそこに見えると云うのに右足の膝が笑い出して、まるでオモチャのロボットのようにすり足でナメクジが這うようにゆっくりの歩みになった。漸くつり橋に辿り着くと車止には途中で会った若者達の車が一台だけボツンとあった。無人雨量局作業の皆さんはゲートを開けたままダム事務所で待っていてくれた。1997年6月6日、二回目の杵差岳登山をした。しかし、またも山頂近くの天候が悪く飯豊連峰のパノラマは見る事が出来なかった。ここ迄は一回目の事を書いた。

二回目は道のりも分り力の配分も上手く行ったと思う。二回目も大鷲のつがいに会う事ができた。残雪が近づくと斜面に腹這いになりカメラを用意して進んだ。やはり雲間から現れた鷲はゆったりと旋回してくれたが小生のシャッターチャンス悪く点の様に写っていた。残念！その代わり大鷲が羽ばたいて散らした羽、二葉は小生の日記帳6月12日と6月6日のページに葉よろしく挟まっている。この次、もし書く機会があれば、送電線の鉄塔下巡視路で下刈作業の様子という事になる。杵差登山から7年いやまもなく8年にもなる。



杵差岳を背景に筆者



千原付近から④

かんろく会／2002

亀山 知明 (高3回)

恒例の「かんろく会」を、昨年秋も深まった11月23日(日)にいつもの東京ガス「四谷クラブ」で開いた。概ねの人が昨年は「古希」を迎え、春には我々の干支である「申さる」に因み新潟と関東を結ぶ旧三国街道沿いの「猿ヶ京温泉」でお互いに生きて迎えることの出来た「古希」を祝った時の話し、また、臉に残っている残雪をかぶった谷川連峰、それを背景としたみどり鮮やかな若葉・・・・・・その時の情景を思い浮かべた話しなど、いつにもなく話がはずんで楽しい一夜を過ごした。

今回も、新潟からは遠路坪川君、辻川君など5名が参加し総勢23名、「ふるさと活性化を・・・・」なども大きな話題になっていた。

それにしても「子曰はく・・・・七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず」(論語 為政四)で、とにかく時間の経っているのも忘れた賑やかな一夜であった。

なんと、その後、席を改めての「なつめろカラオケ大会」(当日出席者の殆んどが参加)と続いた70才「松城健児」の集いも来年の再会を約し無事終わった。



かんろく会 於四谷クラブ 平成14年11月23日

【あこのころの追憶】写真集を見て

山中 正勝 (旧中28回、新潟市在住)

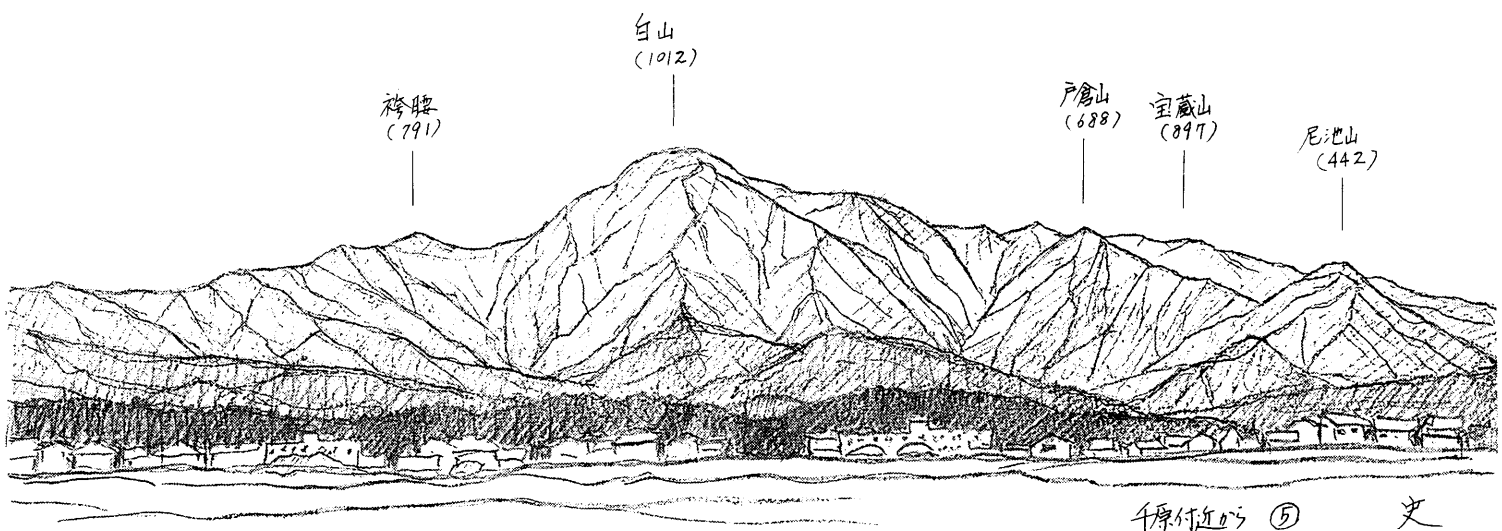
『戦後の日本は、とても貧しく、苦しい時代であった。しかし皆苦しさに耐え、強く逞しく生き抜いてきた。忘れてはならない日本人の記録。』

巻頭の一文を噛みしめながら、この写真集を繙きました。

58頁59頁の西村松駅、改札口、ホームは私にとって貴重な風景として目に飛び込んで来ました。なぜなら、23・4歳の頃、西村松駅から加茂へ何年か通勤していたことがあったからです。当時の加茂行きの電車は結構混んでいて、暫らくは吊り革につかまって立っていたこともあったと覚えています。蒲原鉄道は何年か前に廃止になり、線路は今、立派な舗装道路に姿を変えました。

39～45頁の田園風景を目にしていた時、一緒に見ていた家内が写真より更に一昔前のことを話し出しました。農家の男子が出征して人手不足の農家に女学生が勤労奉仕として出かけ、蛭のいる田圃に恐る恐る入り田植えをした事、また、田舎のお婆さんの家に稲刈りの手伝いに行き、子供の背には重過ぎるお米をかついで田舎からの遠い道りを歩いて帰った事など、追憶は更に過去へと私達を誘ってくれました。

100頁101頁で新潟市の昭和橋の写真を見て驚きました。昭和39年の新潟地震では新しい昭和大橋が近代美を誇って架けられたのも束の間、無残に崩れ落ちたのは、今新潟に住む身としては印象深いことですが、その7年前までは写真のような木の橋が架けられていたとはすっかり記憶から薄れておりました。この写真集を見て昔の思い出を幾つも蘇らせて下さった林寛先生に感謝します。この写真集が手元にある限り、私たちの若い日々を思い出すよすがとなるでしょう。



東京新潟県人会広報委員 市川 昭二

その後 益々ご活躍のご様子、大慶に存じます。
さて貴会報「臥龍が丘は緑なり」を頂戴いたしました。
厚く御礼を申し上げます。早速楽しく拝見させていただきました。とに角、佐伯会長の名文、随想、漫談を面白く
そして感心しながら読みました。

「同級会は持病の宣伝場」のタイトルの良さもさること
ながら、自分達のクラス会も全く同じスタイルなので、
「そうそう・そうだ!」と臨場感に浸りました。宴会の
写真と、末は博士が大臣かと夢見た頃の写真の組み合わせは素晴らしいですね。

“制服の変遷”、非凡な記憶力にさすがに名会長だなど
思いました。忘れかけていた「剣吊り」という言葉と、
その写真、懐かしい限りです。ゲートルに素足で教練に
臨み、配属将校に怒鳴られバツに砂利道を走らせられた
ことなど、六十年前を思い出しました。

御礼旁々気のつく儘に、有り難うございました。

新潟市在住 五十嵐 喜作（中27）

「松城」20号、「広報かのせ」等々拝受。各方面での
活躍ぶりに敬意を表します。「松城」で村松町教育懇談会
に、町長が14年間も顔を出さなかったことを知り咄然
とした。松高の低迷ぶりの原因のひとつが、こんな所に
あったのかと思った。また「私がやります」で地元同窓
会が、もっと元気になってほしいとも思った。

明治維新前後の村松藩に取材した小説を送る。

（南条範夫・十郎とお蘭さま）以前購入したものだが
村松町史などと比べ、ある程度史実に拠ったものと思わ
れる。何かの参考になろう。

ちょっといやな話

ビールの発泡酒の売れ行きが良いので、税金があがる
という。この拙稿が世に出る頃は、もう上がっているか
も知れないが。前にも焼酎がそうだった。分量の半分は
税金である。それに消費税が掛かる。

庶民のささやかな楽しみが奪われつつある。反対の世
論が湧き上がってこないのが不思議である。国の予算の
支出には大きな無駄がある。例えば国会議員の数、外国
への無意味な援助。こういうものから減らしてゆけば、
なにも酒税を上げることはないと思うが、飲ん兵衛の皆
さん、如何が、お思いか？ （伯）



鈴木 多喜男（高4回）

私は日本が国際連盟を脱退した年、昭和8年に生まれ
ました。日本は次第に軍国主義が台頭しついに第二次大
戦（昭和16年12月8日）に突入するはめになりました。
終戦の翌年（昭和21年）旧制中学校へ最後の入学
をしたが高校一年までの4年間は常に最下級生でした。
幸いにも多くの同級生が同じ学び舎で6年間一緒に過ご
した事は今日まで強い絆の連帯感が肌に沁みえています。

私は6年間、津川から毎朝5時50分の一番列車で四
季を通して通い続けました。一番辛かった事は今でも忘
れられない冬の通学で、未だ暗く寒い時刻に朝食を済ま
すとも誰も通っていない雪のさら地を約20分駅に向かっ
て歩くのです。特に吹雪の日は泣きたい思いが……

私の前に道はない!! 私の後ろには道ができる……

いつも始発に乗る顔は同じで、新潟まで仕入れに行く商
人の姿、学校は違うが何人かの学生の姿、それに会社員、
列車の中で弁当を開けて食べる姿があちこちに見られま
した。津川から馬下までの山合のトンネルは24を数え
窓を開けると石炭臭い灰色のモクモクとした煙が車内に
飛込んでくるのです。磐越西線は阿賀野川沿いに走るが
当時は生きる為に必死で山々の紅葉の美しさ、阿賀野川
の清流、そうした山紫水明を味わう余裕などありません
でした。生きる為の生活防衛に老いも若きも一生懸命協
見もせず暮し続けたと言っても過言ではありません。

時は流れ、日本経済は昭和30年前半から次第に高度
成長期に入り60年代から世界のトップクラスに躍り出
ました。今ではデフレ経済の先行き不透明な社会構造が
大きな社会問題になっています。時代は幼児期、成長期、
成熟期、衰退期と変貌していきます。私達は古希を過ぎ
たと言え一番大変な時代に直面しそれを乗り越えた力強
さは誰にも負けないと自負しています。若い者から見れ
ば「頑固」としか写らないだろうが今、こうした不透明
な時代こそ世の中に役立つ行動を起こすのも一つの信念
ではないだろうか。全国で3,300程の市町村の自治体を
政府の旗振りで「平成の大合併」をとその議論が各地に
吹き荒れ「まちづくり」の議論よりも合併相手の組み合
せの政争にしか見えません。確かに過去の制度を根本的
に変革させるものと変えてはならない文化があります。

私達が育った時代は生活が貧しくとも人々の連帯感、
心の絆、人の温もりがありました。今日は物質的に満さ
れているが肉体的、精神的には脆弱にしか写りません。
各位が同窓会、同級会、県人会等の色々な会合にただ参
加するのではなく、創造力を発揮して次代を担う若者にも
語り継ぐ夢を提供出来ると思われま。

「古きを尋ね新しきを知る!」我々はまだ老ける年齢で
はありません。いつも心に余裕を持ち、健康に恵まれ、
若々しい人生を堪能しようではありませんか。

「閑話」 ちょっと気になるコトバ

八木 又一郎 (高7回)

年をとると自分では、何にも気づかずに、しゃべっているくせに、人が話している言葉が気になることが多く、日本語が乱れているなんておそれたことは言わないが、日ごろ感じていることの中から三つあげてみる。

しかし、私が思っているだけのことであって、間違っているかも知れないことである。

“センセイ”

議員や医師、文士の方を尊敬して先生と呼ぶことがあるが、その方が自分のことを先生といわれたことを聞いたことがない。ところが、学校特に小中学校では教員が、自分のことを「先生」と第3人称で呼んでいることである。「先生はこう思っているんだ」、「先生の言うことを聞きなさい」「先生の言っていることがわかるか」

学校の教員を先生と呼ぶのは、児童・生徒、保護者あるいは他の人たちが尊敬や敬意をはらって呼ぶ言葉であろうと思っている。

なぜ「オレは、僕は、私は」と1人称で話ができないのだろうか。

“扉が閉まります”

電車に乗っていていつも思うのだが、発車前のアナウンスで車掌さんが「扉が閉まります。ご注意ください」この「閉まります」が気になるのである。自分で開閉器を操作して閉めるのである。プラットホームでのアナウンスで「扉が閉まります。駆け込み乗車はおやめください」の「閉まります」は納得できるのである。確かに扉は閉まるのであるが、自分で閉めておいて「閉まる」はないだろう。「扉をしめます。ご注意ください」ではないだろうか。車掌さんの中には「閉まります」ではなく、「扉を閉めます」と自分の意思で閉めることを告げる方もおられるが-----。

“～たいと思います”

いろいろな会、会議のあいさつや、コメントで「～たいと思います」という言葉が気になる。例えば「感謝申し上げたいと思います」「お礼申し上げたいと思います」である。感謝やお礼を申し上げる対象がそこに居ない場合ならわかる気がするが、感謝やお礼を申し上げる対象が目の前に居るのに「たい」はないだろうと思うのである。すなわち「感謝申し上げます」「お礼申し上げます」「有り難うございました」ではないだろうか。「たい」を辞書で引くと「度い」とあり、動詞などの連用形について「希望の意をあらわす」とある。「褒められたい」のように使うようだ。

どれも主体性のない言い方のように思えてならないが、皆様はどうお思いでしょうか。広報委員会宛にご意見、ご感想などいただけたら幸甚に思います。

高4回生有志・新宿「パイラスクラブ」の例会

～疎開学友との絆60年～

鈴木 健司 (高4回)

高4回生(昭和27年卒)と、新宿3丁目かなめ通り「城北パイラスクラブ」の交流について書いてみました。

まずは「パイラスクラブ」の説明から始めます。

場所は、新宿「末広亭」近くのF Bビル4階にあります。都立戸山高校(旧府立第四中学校)昭和27年卒業生の石川正久氏が、自社ビルの4階を同期生懇親の場として、戸山高校27年卒業生と戸山高校同窓生に提供されたものです。およそ25～26年位以前のことでしょうか。戸山高校27年卒業の正会員・準会員の戸山高校同窓生と正会員紹介のビジターが利用できるメンバーズクラブです。村松高校27年卒業生の紹介者は梶屋庄佑氏です。

梶屋氏は昭和20年、五泉小学校6年生に疎開して来られ、昭和21年、旧制村松中学校に我々と一緒に入学されました。中学3年生で旧府立第四中学校に転校され、戸山高校昭和27年卒業生となりました。

梶屋氏に同クラブへ紹介して頂いたのは、20数年前のことでした。それ以来我々は「パイラスクラブ」の「準メンバー級」として、有志の懇親会・関東地区の同期会・忘年会・二次会場などに利用させて頂いて参りました。

現在は「偶数月の第2木曜日」を例会日として、有志が通常4人～10人位集まって懇親会を開催しています。最近では現役リタイヤの方々が出席されて、50年ぶりの出会いの場になったり、地元新潟からたまたま上京された同期生との懇親の席になったりしています。

私達を迎えて下さいました石川正久氏を初めとしての戸山高校メンバーの方々のご厚意と、紹介者梶屋庄佑氏のご人徳の賜物に感謝しながら、今後とも長生きをしてこの例会を積み重ねて行きたいものと念願しています。



平成15年2月13日(木)の例会にて

——表紙について——

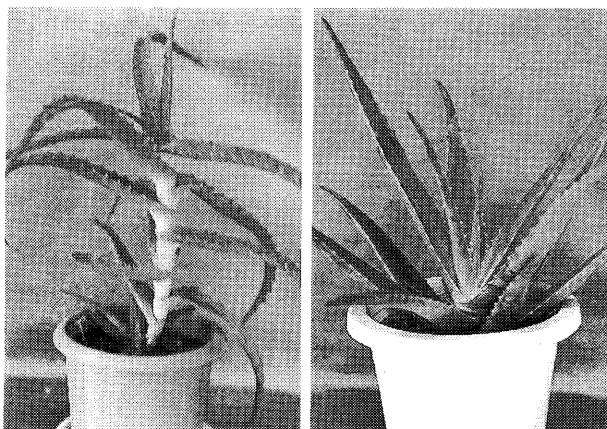
平成3年3月に竣工した都第一本庁舎(高さ243m、地上48階、地下3階)を新宿中央公園から撮影した。石原都政の二期目(3月の選挙で300万票)、はたして?

健康増進食品“アロエベラ”の体験

新保 優（高10回）

さまざまな健康食品や健康増進材がテレビ番組や新聞広告で話題になっている。しかし奇跡的な効果を示す経験談や服用前後の写真に見られるように、ある種の新興宗教にも似た怪しさが透けて見える気がしていた。アロエベラもこのような健康増進食品の一つであるので、私はあまり関心を持っていなかった。しかしながら数年前に園芸関係の講演を聞いたとき、アロエベラに心底惚れ込んでおられる講師がいて、その効能がいかに本物であるかをしばしば講義の本筋から脱線して話された。その説得力に感化されて、自分で確かめて見る気になってしまった。その結果、日焼けや胃腸の不具合には確かに効くように思えて、その後話を聞いたりいろいろ調べたりしているうちに、アロエベラに取り込まれてしまった。

写真に示したように、アロエベラは茎がほとんど伸びず、長く肉厚の葉が株元から群生する、リュウゼツランに似た多肉植物であり、暖地でよく見かける、茎の長い木立（キダチ）アロエとは別種である。



キダチアロエ

アロエベラ

しかし木立アロエもアロエベラも良く似た成分が葉に含まれており、どちらも同じような目的で利用される。ただ木立アロエは葉肉が少ないので、葉の皮に含まれる苦味成分が主に利用されるのに対し、アロエベラは葉の皮に含まれる成分が薬事法で規制されているために、一般にはゼラチン状の葉肉（ゲル）が利用される。

アロエベラは熱帯、亜熱帯の乾燥地でじっくり育てられたものが薬効が高く、化学肥料で促成栽培されたり、温室内で軟弱に育てられると効力が激減する。東京近傍では、冬に室内に取りこめば温室がなくても栽培できるが、薬効はあまり期待できない。カリフォルニア産やメキシコ産、日本では沖縄産のものが薬効が高いそうである。アロエベラは米国では医薬品として扱われており、規格によって品質が保証されている。

アロエベラのゲルは殺菌作用のほかに、細胞の再製力と免疫力を高め、美容やダイエット効果、老化防止、慢

性病対策、抗ガン作用からエイズの治療まで効果があるとされている。その全てを信ずるには抵抗を感じるが、私の経験では日焼けや胃炎、便秘の他に、口内炎や歯茎の痛みにも効くようである。しかしアトピー皮膚炎に対しては、直接塗ったらかえってかゆみが広がった。アロエには皮膚のかぶれや下痢などの副作用があるので、最初は少量づつ食べるとか、腕の内側に少し塗るなどして様子を見ると良い。

アロエベラの葉を2~3cm 巾に輪切りにしたもののが一回分の分量になる。葉の皮をむいてゲルを取り出し、一日に1~3回空腹時に食べる。ゲルはかなりぬるぬるするがほとんど苦くない。しかし皮やゲルから分泌される黄色い粘液は苦い味がするので、慣れないうちは水で洗うと食べやすくなる。また皮の粘液を皮膚に塗れば美容効果が期待できる。アロエゲルはボン酢などをつけて生食する他に、てんぷらにしたり、お茶として服用したりできる。アロエについては多くの本が出版されており、食べ方や効力が詳しく説明されている。

切った葉は切り口にラップを巻いて、冷蔵庫の野菜貯蔵室で保存する。古くなるとゲルが苦くなり、やがて酸っぱくなって色も変わってくる。保存できる期間は2~3週間である。しかし茎から外しただけの葉ならば、二ヵ月以上保存できる。

アロエベラの生葉は輸送と保存の問題のため、やや手に入り難く高価であった。しかし最近では数枚程度の少量でも入手できる。そして以前は1000円以上した600~800gの生葉1枚の価格は400~800円まで下がってきた。また現在は種々のゲル製剤が販売されているので、やや高価ではあるが手軽に使用できる。生葉やゲル製剤の入手先はインターネットで知ることができるが、信頼できる供給元は経験者から聞くのが良いと思われる。

30億回！

これは何を意味する数字でしょう？

心臓は一分間に70回ほど、一日に10万回、平均寿命まで、なんと30億回も鼓動を続けて体内に血流を送っています。心臓が収縮する時に心臓から微弱電気が発生します。この電気をグラフに書き出すのが心電計で、ドクターはこの心電図の波形を読み心臓の正常、異常を診断します。ちなみに子犬や猫は、人間よりも心拍数が多いため平均寿命は人間よりはるかに低いのです。

たゆみなく働き続ける心臓に感謝をして大切にしたいものです。

なお余談ですが、人間の細胞は最良のコンディションにいとくと150年もつそうです。ストレスや不摂生をして何十年も耐用年数を縮めているのが人間の弱さとも言えるでしょう。（ 蒔 ）

村松今昔物語

塚田 勝 (高8回)

この度、(株)郷土出版社発行の「五泉・村松・東蒲原郡今昔写真帳」の懐かしい街、あの風景集を拝見し私が昭和18年、東京隅田国民学校1年の2学期の秋、お袋の生まれ故郷である村松町に疎開し、村松高等学校卒業までの12年間の思い出が甦る。最近、日本全国で平成の大合併との流れの中で五泉・村松の合併、東蒲原地域の合併を耳にする。特に、12年間お世話になった村松についての今昔物語を写真集の中で写した文章を紹介したいと思う。村松町は、正保元年(1644)堀家3万石で成立した村松藩の城下町である。その町並みは、昭和21年(1946)5月の大火で1200軒を焼失したものの、十分に城下町としてのたたずまいが残っている。町内を巡る道にもその面影が見られ、それらは全て城を敵撃から守る要塞としての配慮がほどこされたものである。町名にも各寺院を一ヶ所に集めた寺町、大手町、長柄町、御徒士町などが残っている。

明治に入ると政府は近代化と殖産興業の新しい政策を打ち出して、村松合同製糸工場などが設置され繊維産業が発達した。日清戦争のあおりから軍備が増強され、城下町村松に明治29年から歩兵三十連隊が設立された。その後、軍都として発展し、各地から軍人を収容する為の兵営が建てられ、それと同時に営所道りと称する町並みもできた。連隊の駐屯により、町を一変させることになる。昭和初期になると工業化が進み、織物が盛んな五泉では個人経営や会社経営の機屋が軒を連ねていた。また、村松には県下最大の片倉製糸工場があり、主に輸出品を手がけ活況を呈していたが、戦争が勃発すると経営は傾いた。

村松公園の櫻は広く人々に愛され、蒲原鉄道が開通すると、花見の季節には駅から公園まで人であふれた。村松公園は明治39年10月、日露戦勝記念として造成された。春になると、約3000本の櫻(9割は染井吉野)が公園内で咲き誇る。蒲原鉄道は大正8年7月、越後鉄道の常務を務めた久須美東馬らを発起人として五泉～川内間の路線を申請、大正12年10月20日に五泉～村松間を県内初の電気鉄道として開通した。昭和4年10月加茂駅まで15駅開通。その後、経営不振により昭和60年村松～加茂間を廃止、平成11年には五泉～村松間も廃止、76年にわたる電気鉄道の幕は閉じた。

村松町は白山、菅名岳、川内の山を背に平坦な農地が連なり米所の平地が広がっている。村松駅と西村松駅の間辺りに白山がそびえ、雪は例年6月上旬に消えると云われている。村松は文教の町である。古くは明治元年に藩校「文武館」が生まれている。これはもちろん、武士の為の学校である。明治36年に県立村松工業学校が設立され、間もなく長岡に移転した。明治44年、旧制

村松中学校設立、戦前の昭和18年には兵舎内に全国で二校しかない村松陸軍少年通信学校が設立され、全国から800名の生徒が集まった。旧制中学時代は村松、五泉、加茂、新津、亀田、白根、東蒲原など幅広い地域から通学者があり、各界に多くの人材を輩出した有名校であった。昭和23年、近郷で唯一の県立村松高等学校が設立され、翌24年に村松高等女学校も合併されて県内でも早い男女共学校となる。現在の校舎は3階建て鉄筋コンクリートであるが創立当時の伝統ある校門が今も残っている創立90年の伝統ある学校である。

村松町役場は昭和初期、木造の建物で威厳があった。たびたび町の式典会場となり町の有力者や軍閥関係者が参列した。しかし昭和21年の大火で焼失、直ちにバラックで旧村松高等女学校の跡地に建て、昭和46年に竣工された新庁舎の周囲には、公民館や法務所、保険センター、さくらんど会館(旧村松小学校跡地)などが建ち、町の中心的な役割を果たす。

日枝神社祭礼は、昭和10年頃より秋祭りが開催(9月17～19日)され、灯籠の奉納や奉納相撲などの興行も開かれて賑わいを見せている。

昭和初期、村松に軍隊が駐屯し営門までを営所通りと呼び道の両側には雁木が続く。終戦後の21年に村松大火で県立農林専門学校(後の新潟大学農学部)、小学校、中学校が兵舎を利用したため営所通りから学校町通りと改称された。現在は、いずれも移転して住宅地になり日の出町となっている。大手通りの正面に本町通りの三村屋菓子店(昭和11年頃創業)のたたずまいが現在も残っている。昭和15年頃の初荷風景・正月の松の内に青竹ののぼりをお得意様の店先に立ててご祝儀を頂く風習は戦後、自動車が普及した為やがて無くなった。

昭和30年代の村松町別所の虚空蔵様、参拝人で賑わう。昭和30年代の村松矢津、銕や肥料を積んだリヤカーで畑仕事。昭和30年頃の村松の市、3と8のつく日(3日、8日、13日、18日)に本町通りで市が立ち、農家の人達が農産物を販売し買物客で大いに賑わった。時代は車社会になり交通量が増加した為、市は現在の保険センターの駐車場で開かれ、今は3日、8日の市として人々から親しまれている。戦後、人々の勤勉さにより経済は徐々に立ち直り近代化が進み、役場や学校をはじめ工場などは木造から鉄筋へと作り替えられ、街並みの一角にあった映画館は姿を消していった。現在、町の中心街では郊外に出来たショッピングセンターへの客足流出を食い止めようと新しい街造りを模索している。住宅地域は過疎化が進み、住む人のいない廃墟が続き昔の面影がなく寂しさをさそう。

訃 報

芳賀 健一氏 (旧中33回卒)

平成14年11月17日永眠されました。氏は長年にわたり東京同窓会の幹事を務め、会の発展に貢献されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

ちょっと言いたいこと

また8月15日が巡ってくる。政府関係者の靖国神社への参拝について、マスコミの「公人ですか？私人ですか？」の猛烈なぶら下がり取材が始まる。そして大々的に報道する。もちろん韓国や中国へもご注進に及ぶだろう。両国からは威嚇猛々しい内政干渉の文句がくる。戦争犯罪人が祀られていると言うのが大きな理由である。韓国にはそれをいう資格はない。戦争犯罪人とはいったい誰が決めた？ 戦争犯罪人とは法的根拠の無い報復的な東京裁判によって処刑された人々である。

政府は理解を求めると言うのみで断固抗議はしていない。靖国とは国を靖んずること。すなわち平和を願うことである。国のために命を捧げた人達を祀り、お参りするのが何故悪いのか。

今の日本の政治・世論はマスコミに振りまわされていると言っても過言ではあるまい。先の戦争の開戦は、東條さんも苦渋の選択であったに違いない。

「戦犯」というのはイヤな言葉。広い範囲で使っているが、もう止めたほうがよい。(伯)

ちょっといい話

日本の道路上通行は、昔から左側通行が守られていた。武士が腰に差した刀の鞘が当たらぬためである。これが当たると「鞘当て」といって争いの元となった。然るに何時頃からか「車は左・人は右」と道交法が変わった。後ろから車に追突されるのを防ぐためであったらしい。ところが、現状はいったいどうだろう？まるで目茶苦茶である。守られていない。渋谷や新宿のスクランブル交差点での混乱は物凄いものである。大分前に、地面に矢印で方向づけをするべきだと提唱したことがあるが、未だに実現されていない。(警察で話をした覚えがある)

「車も人も左側通行」に戻すべきだと考える。歩道上の自転車の通行にも区画線を引いて通行範囲を明確にするべきであろう。因みに言うがスクランブル交差点とは「多方向から、歩行者が一斉横断できる交差点」であって、咬み合う、混乱させるとの意味である。

スクランブルだけだと、緊急発進となる。

行政の再考を促したい。(伯)

加藤系一さんが退職後、近隣の山で下草刈りの奉仕活動を始めたとき、とてもそんな荒っぽい仕事をするとは思えない温和な人だったのでは？と、ちょっと意外な感じがしたものです。村松で逢った時、何故？と聞いたら彼は、今まで身体を使わなかったから今後は逆の事をやろうと思って……。などとゆったりした調子で笑いながら言ったのが印象的でした。

彼は退職までずっと「美術教師」でした。 深見

編集後記

四月一日の東京新聞を読んでビックリ仰天した。日本石油開発機構の調査により、東京湾の地下五千メートルを越えた地層に推定埋蔵量千億バレル(一バレル約百五十九リットル)の巨大油田が発見された。国内消費の八十六年分に当る。調査に協力した若石知男・秋田学院大学教授(鉱物学)は「有機物のない火山岩地帯の日本では考えられなかった。地下に石油がたまる地殻変動の空白地帯があったことになり、今後メカニズムを詳しく調べたい」と話す。

日本の原油輸入金額は昨年四兆六千億円で、これがゼロになる。逆に輸出が出来るので成長率を2%上げ、雇用と税収も増える。政府筋によると、実は油田発見の事実には密かに小泉首相に伝えられていたという。それは首相の言動からも窺い知れる。今年度予算の国債発行額の三十兆円枠突破に拘らなくなったのは、ちょうど油田発見を知った昨年十一月からだ。今年一月にも三十兆円枠を公約として守れなかった事を「たいしたことはない」と発言したのも肯ける。

外交評論家の田中真樹氏は産油国となった日本の責務をこう強調した。「エネルギーを有する経済大国になったことでアジアの近隣諸国に脅威を与えない為にも、日本は積極的な平和外交を展開しなければならぬ。世界には今、覇権国家がいかに恐ろしいかという(負)の教科書がある。日本は米国のようにならない、と小泉首相が身をもって証明しなければならぬ。」

最後に(この記事は絶対にありえない架空の話です)とことわり書きがあった。誰しも夢をもつ。四月一日はとんでもない大きな夢を持ってよい日である。しかしながら、年中そんな状態では困ったことになる。皆さん、実現可能な夢を持って楽しく愉快な人生を送るうではありませんか。

広報委員会

平成15年6月 第35号

表紙の題名・題字は、佐伯益一氏(旧中27)書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

事務局 〒157-0061 東京都世田谷区北烏山3-18-20 八木 又一郎 方

電話・FAX 番号 03-3307-1048



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	新 校 歌
1. 塵の巻を遠ざけて 雲たち迷う白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流れにも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰か心ぞや 5. それ英雄も人傑も 人の子吾等がたぐいなり 嗚呼松城の健男児 勇みて立つべし諸共に	1. 愛宕の山のむら松の 常緑色の常磐なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雲にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. 其の名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂うごと 気高き姿保たばや	相馬御風 作詞 中山晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生氣湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
応援歌	応援歌	応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高なる血潮 たたえつつ春の日めぐる 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て はなぐれないの香に匂う 誉れは高き松城の 健児が胸に血やおどる 2. 我等がえらぶますらおの 誉れは海の湧くがごと 望みは雲のゆくがごと 月の桂をなゆずりそ 栄えある名をぞとこしえ に	1. 松城健児六百が 祖国のために剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権をゆずる事なかれ 我等六百ここにあり 3. 今壮快の晴れいくさ 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権をゆずることなかれ 我等六百ここにあり